



RS FIT MILD

RS フィットマイルド

RS フィットマイルド

F☆☆☆☆



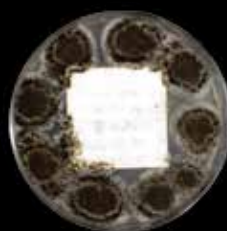
防カビ・防藻性

カビや藻が建物に影響する美観の問題や早期劣化の予防に効果を発揮します。

防カビ性



RS フィットマイルド



従来水性塗料

防カビ・防藻剤を配合しない塗料

<試験方法>

カビ類または藻類を培養させた寒天の上に塗膜を置き、一定期間後の状況を観察します。
中央の四角(塗膜)にカビまたは藻の繁殖が認められれば、防カビ・防藻機能を有していると言えます。

■ 塗膜性能

試験項目		RSフィットマイルド	ターペン可溶・NAD形アクリル樹脂塗料	塩化ビニル樹脂塗料	エマルジョン塗料
塗膜性能	防カビ性	◎	○	○～△	△～×
	防藻・防苔性	◎	○	△～×	△～×
	ヤニ・シミ押さえ	◎	○	◎	○～×
	温冷サイクル	◎	◎	○	○～△
	耐水・耐アルカリ性	◎	◎	◎	○～△

強力な防カビ・防藻・防苔で美観を保持し
きめ細かな仕上り肌が得られます。



セルフクリーニング
効果

塗膜の表面を超親水性にすることにより、付着した汚れの下に雨水が入り込み汚れを浮かして除去します。雨が降るたびにセルフクリーニングすることで美観を維持します。

RS フィットマイルド

雨水が汚れの下に入り込み、
汚れを浮かして洗い流します。



従来塗料

雨水が汚れの上を通過するため、
汚れが残ります。



■ 塗装条件

塗装方法	ローラー	刷毛	エアレススプレー
希釈率	0~10%	0~10%	0~10%
標準所要量 (kg/m ² /回)	0.13	0.13	0.15
希釈剤	塗料用シンナーA		

※標準所要量は、個々の条件によって異なります。 ※標準塗付け量は、0.11 (kg/m²/回) です。
※所要量・塗付け量の定義は、JASS18に準拠しております。

■ 塗装間隔

項目	温度		23℃
	標準塗装間隔	最短	
最長		7日	
使用時限			—

■ 主な用途 (適用素材)

軒天井・塀等の艶消し仕上げ (モルタル・コンクリート・石膏ボード)

- カビ、藻、シーリング材のにじみ、鉄サビに起因する汚れは、従来塗料と同等のレベルです。
- 塗装後3日～1週間から落ちはじめ、その間に付着した汚れも徐々に除去されます。但し建物の構造上、本来の低汚染性能が十分に発現しない場合があります。雨掛かりの少ない被塗面や、汚れが大量に流れ落ちる被塗面では、十分な汚れ防止効果が得られないこともあります。

本注意事項及びにご使用になる下塗のカタログに記載の注意事項を必ずご確認の上、塗装を行ってください。

- 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温、高湿度、通風の無い環境では、膨れ、はく離、ワレ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。
- 長期間結露が継続し発生するような箇所への塗装は避けてください。塗膜剥離、膨れ等の異常が発生するおそれがあります。
- 可塑剤が多く含まれる部材（塩ビ鋼板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など）への塗装は避けてください。粘着や軟化が生じるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。
- 蓄熱されやすい素材（軽量モルタル、ALC、高断熱型窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を用いた「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシンや弾性スタucco、アクリルトップ等の場合、そのまま塗装すると環境条件によっては水や温度の影響で塗膜が膨れたり、剥離が発生することがありますので、旧塗膜は完全に除去してください。
- 家具類（テーブル、カウンター、棚）、床、遊具類（ベンチやジャングルジムなど）などへの塗装は避けてください。
- 塗料用シンナーで溶解する旧塗膜や下地の場合には塗装しないでください。（チヂミ、ニジミ、フチ等発生する場合があります。）
- 濃色色仕上げの際、雑巾ウエス等で強くこすると、色落ちや艶変化が起こる場合がありますので、衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けてください。
- 弾性塗料等の柔らかい塗膜の上への艶消し塗料の塗装は、ワレが生じるおそれがあるため避けてください。
- 気温5℃以下（低温）、湿度85%以上（高湿）での施工は避けてください。
- 屋外において降雨、降雪、強風の恐れがある場合は塗装を避けてください。
- 塗装間隔は環境（温度、湿度、換気回数等）や膜厚によって変わります。
- 所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などにより増減することがあります。
- 塗膜に降雨や結露の影響を受けた場合は、白化や艶引けなどの異常が生じやすくなります。山間部や河川近くなどの夜露の早くおきる多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。
- 塗装仕様書に記載の数値は標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅が生じることがあります。
- 塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行なってください。
- 軒天などのリシン面の塗替えには希釈剤「スーパーンプラ」を5%程度希釈して塗装するよう塗ってください。
- 旧塗膜に光沢が残っており劣化していない場合には付着不良や塗り重ねチヂミが発生する場合があります。旧塗膜表面の目荒しを行ない、試し塗りによって確認のうえ塗装を実施してください。
- 吸い込みの著しい下地では、希釈範囲内で1層目のシンナー希釈率を上げてください。
- 吸い込みの大きい下地や素材の場合は、塗付量が多く乾燥が遅くなりますので塗装間隔を長めにとってください。また、上塗までの塗装間隔が規定よりも短い場合、縮み、ワレ、乾燥不良を起こすおそれがありますので注意してください。
- 被塗物の形状、膜厚や色目、塗回数、希釈率の差などにより、実際の艶と若干異なって見える場合があります。また塗継ぎ箇所で艶ムラを生じやすい傾向があります。試し塗りの上、本施工に入ってください。
- 塗装間隔は厳守してください。塗装間隔を過ぎた場合は目荒らしを行った後に塗装してください。また、塗装間隔が短い場合は、チヂミ、ワレ、しわ等が発生することがありますのでご注意ください。
- 塗付量が極端に多いと乾燥が遅くなり、塗り重ね時にチヂミ、ニジミ等の問題が発生する場合がありますので、規定の所要量の範囲で塗装してください。
- 異なる色相で塗り重ねる場合、2層目の上塗り時に1層目の色のブリード（色の移行）が発生する場合がありますのでご注意ください。
- ドアや手摺など人の手が頻繁に触れる所では、手垢汚れ、皮脂、クリーナー、整髪料等の影響で塗膜が軟化し、繰り返しにより塗膜が剥がれる事があります。このような部位には溶剤系2液ウレタン塗料をお勧めします。
- 無機系樹脂、光触媒処理、ふっ素樹脂、シリコン樹脂等特殊な樹脂で処理された窯業系サイディングボード面に塗装する場合は、下塗材として「RSマルチシーラー」をご使用ください。なお、事前試し塗りし付着性を確認してください。付着性に問題がある場合は、目荒しを行ってください。
- 新設建材が押出成形セメント板やGRC板の場合には、下塗を「RSマルチシーラー」をご使用ください。
- 硬質塩ビ種やFRPの場合は、下地調整とし目荒らしと脱脂を行った上で塗装してください。
- シーリング打設幅が広く、構造上大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので避けてください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、剥離、伸縮割れ、粘着などの不具合を発生することがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、本製品に対して塗装適合性のあるノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全に硬化した後に行ってください。また「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」[「シーブラ」][RSプライマー]を下塗とすることで、可塑剤移行による汚染、粘着の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などにより剥離、伸縮割れが起こることがあります。

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

【予防策】

- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具（帽子・保護メガネ・マスク・手袋等）を着用し、身体に付着しないようすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・スリ巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
- 火気避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
- 火災を発生しない工具・防燃性の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
- 裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合（多液品の混合・希釈等）しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。
- 【対応】
目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。

- ごでご了承お願い致します。
- 足場解体時など、部分補修する際には、汚染ムラの発生原因となりますので、硬化剤の入れ忘れ、不足などに十分注意してください。

- シーリング面は、塗膜が汚染・はく離・収縮割れを起こすことがあるため、マスキングテープなどで養生を行い、塗装を避けてください。シーリング材を打ち替える場合は、後打ちとし、可塑剤（油分）を含まないノンブリードシーリング材をご使用ください。
- 艶消し品を仕上げる際は、塗り継ぎ部をつくらぬよう注意し、面を切って、通し塗りを行ってください。
- 艶消し品は、膜厚、温度、塗色、塗回数、塗装方法、希釈率などにより艶の発現性が変化します。特に剛毛ローラー塗装時の塗継ぎ部では厚膜となり、その部位の艶が高くなり、艶ムラを生じやすい傾向があります。試験施工で仕上りを確認の上、本施工を行ってください。
- 艶消し品は、高温などの乾燥が早い環境下では艶ムラが生じやすくなります。特に被塗面が直射日光で熱せられる高温になると塗膜の形成肌の凹凸が増え、さらに塗膜厚が不均一になりやすくなるため艶ムラが生じやすくなります。
- 艶消し品は、使用中において塗料に含まれる艶消し剤が沈降しやすい場合がありますので、適宜攪拌しながらご使用ください。
- 補修の必要が生じた際は、面を切り、通しで塗装してください。（部分的に補修すると一般部と艶差が出て目立ちます。）
- 補修塗り用として使用塗料の控えを必ずとっておき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- 補修塗りの際は、塗装方法や凹凸肌のちがいが等により、仕上がり性に若干の差を生じる場合がありますので、部分的に試し塗りした上で希釈量等を決定してください。
- ローラー塗装では同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- 塗装方法により色相が変化する場合がありますので、一般部がローラー塗りの場合はできる限り入り隅まで入れてください。
- 剛毛塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上り肌や色相に多少差が生じます。
- 被塗面の洗浄に薬剤を用いた場合、水洗を入念に行ってください。被塗面に薬剤が残存したまま塗装すると、塗替え後の塗膜に膨れ、剥がれ、白化等の異常をきたす場合があります。水洗後にpH試験紙を用いて被塗面が中性になっていることを必ず確認してください。
- 塗り替え塗装の前に、必ず高圧水洗やブラシを用いて、被塗面の付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。下地調整が不十分な場合には塗膜剥離の原因となったり、光沢不足や色ムラが発生するなど異常を生じるおそれがあります。
- 下地の劣化が著しく旧塗膜の密着不良が見られる場合は、脆弱塗膜を全て除去してください。
- 改修時の既存塗膜の剥離箇所は、予め既存塗膜の塗装仕様で「パターン合わせを行ってください。」
- 改修前に、漏水、ひび割れが認められる場合は、予め要因となっている箇所への防水処理、ひび割れ補修を行ってください。
- 新設コンクリート面に塗装する場合、pH10以下、表面含水率10%以下（ケツ科学社製CH-2型で測定した場合）、又は表面含水率5%以下（ケツ科学社製HI500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合）まで十分乾燥させてください。
- コンクリートの目違い、ジャンカ、コールドジョイント等は、樹脂入りセメントモルタルで平滑にし、表面のごみ、埃、エフロッセンス、レイタンスなどの汚れを除去後、塗装を実施してください。
- 被塗物にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ、藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。
- 塗装前の部位にワックスやクリーナーなどが残存している場合には、ハジキや付着不良の原因となりますので、十分に除去してから塗装してください。
- タイル洗浄薬剤が塗表面に付着した場合、塗表面の変色や早期劣化を生じることがありますので塗膜面の養生を行ってください。
- 防カビ防藻性は繁殖の抑制の効果を示すものです。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、これらの効果が十分に発揮されない場合があります。
- 構造や部位、環境条件により低汚染性が発揮されない場合があります。（傾斜壁の下部、笠木がない壁、汚れが溜まりやすい窓周り、横目地下部、降雨がからない面や、シーリング材からの汚染物質の影響など）
- 塗料の希釈率は試験塗装などにより決定し、それ以降は同じ希釈率で塗装してください。
- 規定範囲を超えて希釈すると、ハジキ・光沢低下・色味変化・グレ・隠蔽力不足など仕上りに異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
- 使用前に塗料を均一にかき混ぜてください。特に濃色系塗料は保管期間が長いと容器内で顔料の分離が生じていることがありますので十分攪拌の上ご使用ください。
- 塗料の希釈時は必ず「塗料用シンナー-A」を使用してください。
- 塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーをご使用ください。
- 開栓後の塗料はできるだけ早く使い切ってください。また使用した塗料を元の塗料容器に戻さないでください。
- 現場での材料は、容器が密栓されていることを確認し、直射日光や凍結を避けた屋内の冷暗所で保管してください。
- 溶剤系塗料ですので、室内塗装では溶剤蒸気が滞留しないよう十分な換気をしてください。また、屋外塗装においても溶剤蒸気が換気口から流入しないよう養生を行ってください。
- 塗料が付着した布ウエス、紙、ローラーは引火、発火を防止するため水に浸漬するなどして安全対策を行ってください。
- 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。



リフォームサミット店
Supported by KANSAI PAINT

リフォームサミット
紹介動画はこちら

関西ペイント販売株式会社 関西ペイントホームページ www.kansai.co.jp

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご諒承ください。
(24年01月01日PKO) カタログNo.835